
日本地球化学会ニュース

No .181

2005 .5 .15

主な記事

●学会記事

- 2005年度日本地球化学会年会のお知らせ(2)
- [選挙公示] 日本地球化学会2006・2007年度役員選挙の立候補および推薦候補者の届出について
- 2005年度第2回鳥居基金助成の募集について
- 「地球化学」博士論文抄録原稿募集
- Geochemical Journalのテキスト化・検索機能公開のお知らせ
- 鳥居基金助成実施報告
- 研連，各種委員会議事録
- その他のシンポジウム，人事公募等の各種情報のお知らせ
 - 書評

日本地球化学会のホームページが新しくなりました

URL アドレスは，<http://www.geochem.jp/>です。

より見やすく分かりやすくを目指しております。

研究助成，シンポジウム，人事公募等の各種情報は随時更新しておりますのでそちらもご覧ください。

会員の皆さまのご意見をお待ちしております。

2005年度日本地球化学会年会のお知らせ(2)

主催：日本地球化学会

共催：日本化学会

後援：琉球大学

会期：2005年9月26日(月)～9月28日(水)

会場：琉球大学千原キャンパス共通教育棟，大学会館
(西原町千原1)

内容：課題討論，一般講演(口頭発表とポスターセッション)，総会，学会賞受賞講演，懇親会

一般講演会発表分野：大気/降水，岩石/地殻，鉱床，有機物，生物，陸水，温泉/熱水，地球外物質，海洋，堆積物，環境，その他

日本地球化学会公開講演会：サンゴ礁が語る地球環境

日時：10月1日(土) 14:00～16:00

場所：自治会館1階ホール 那覇バスターミナルすぐ

課題講演 - 1 海底熱水系と熱水ブルームの地球化学 (仮題)

趣旨：最近，沖縄近海をはじめ南西諸島海域の海底熱水系においては活発な観測研究が継続して行われ，熱水と熱水ブルームの化学的情報が着実に増加している。また昨年度成功裡に終了したアーキアンパーク計画(地下生物圏)をはじめとして，世界各地の海底熱水系の生物地球化学的研究も格段の進展を見せている。本セッションでは，これらの最新の研究成果と今後の展望について広く議論する。さらに，現在立案の進んでいる国際 GEOTRACES (海洋の微量元素と同位体による生物地球化学研究) 計画の重点項目である熱水ブルームの役割解明についても検討を進める。

コンピナー：石橋純一郎(九大理)，下島公紀(電中研)，大森保(琉大理)

課題講演 - 2 縁辺海の大気・河川・海洋間の物質循環

趣旨：日本列島の存在は西部北太平洋海域にそれぞれ特徴を持った縁辺海(オホーツク海，日本海，東シナ海)を形成している。縁辺海は大陸から外洋への物質の移行域として，陸起源物質が大気や河川を經由して運び込まれ，大陸棚の存在による陸棚海底面との物質循環が，高い海洋生物基礎生産を維持する。近年，産業活動の拡大に伴い，河川流量の変化

や人為起源物質の放出量増加が，縁辺海においてもその影響を見せ始めているかもしれない。本課題討論においては，縁辺海への陸起源物質の流入フラックス，縁辺海内での生物生産や沈降フラックス，海底面と底層水間での相互作用も含め，議論する。それぞれの縁辺海の生物地球化学的な特徴を相互比較することにより，今後の国際的なIGBPのコアプロジェクトである LOICZ (Land-Ocean Interactions in the Coastal Zone) や SOLAS (Surface Ocean-Lower Atmosphere Study) への日本の研究戦略を考える。

コンピナー：植松光夫(東大海洋研)，皆川昌幸(中央水研)，中塚武(北大低温研)

課題講演 - 3 炭酸塩の地球化学

炭酸塩を用いて過去から未来への地球環境変動を解読する

趣旨：今年度の年会開催地である沖縄といえば，サンゴ礁の海である。サンゴ礁は熱帯～亜熱帯の海に広く分布する炭酸カルシウムからなる構造物であり，津波に対する防波堤の役割も演じる。そればかりでなく，サンゴ礁物質には堆積時の環境情報が保存されており，過去の地球環境変動を読み取る格好の材料となる。ここでは，サンゴとともに，石灰岩，陸域二次生成物(鍾乳石，トゥファなど)などの炭酸塩に記録されたグローバルあるいはローカルな環境変動の歴史を読み解くための方法論とその問題点を，地球化学の見地から議論を行う。さらに，得られた成果を通して地球環境問題が語られる。炭酸塩だけではなく化学堆積物に関連する研究発表も広く募る。

コンピナー：吉村和久(九州大学)，相沢省一(群馬大学)，大出茂(琉球大学)

課題講演 - 4 地殻 マントル 核の物質循環と固体地球の化学進化

趣旨：地球内部の化学組成や物質循環系を明らかにすることは固体地球の化学進化の解明につながる。本セッションではこれらを総合的に取り扱うことで進化過程を踏まえた新しい固体地球観の創成を目指す。本課題講演では地球内部物質循環と固体地球化学進化に関する講演を募る。研究に用いる手法(微量元素や同位体組成分析や酸化還元状態解析など)や対象試料(地球惑星天然試料や高圧実験等の実験生

成物など)は問わない。また、多角的な固体地球観の創成のため、地震波トモグラフィーや計算機シミュレーション等の地球物理学的研究の講演も歓迎します。(このセッションに関する問い合わせは、山本(jyama@bep.vgs.kyoto-u.ac.jp)まで)

コンピナー：鍵裕之(東京大学), 山本順司(京都大学), 西尾嘉朗(海洋研究開発機構), 松本拓也(大阪大学)

一般講演会発表形式：

口頭発表：討論を含め15分。多くの方が発表できるように、1人1件といたします。2件目からは、ポスターセッションに申し込み願います。

ポスターセッション：ポスターの面積は横85 cm × 縦175 cm, 9時~16時, コアタイムは13時~14時。

総会：9月27日(火) 14:00~15:00

学会賞受賞講演：9月27日(火) 15:00~17:00

懇親会：9月27日(火) 18:00~20:00

場所：琉球大学中央食堂

参加登録費, 懇親会参加費等

1. 参加登録費(講演要旨集1部と送料を含む)予約申込は2005年9月7日まで

会員:5,000円, 学生会員:3,000円, 会員外:7,000円, 会員外学生:4,000円

当日受付:会員:6,000円, 学生会員:4,000円, 会員外:8,000円, 会員外学生:5,000円

2. 懇親会参加費: 予約申込は2005年9月7日まで

会員/会員外:5,000円, 学生会員/会員外:3,000円

当日:会員/会員外:6,000円, 学生会員/会員外:4,000円

3. 講演要旨集(当日販売):3,000円/部(郵送の場合:3,500円/部)

4. 参加登録費, 懇親会参加費, 講演要旨集代金の支払い方法

参加申し込みをいただいた後, 琉球大学生協から請求書と専用の郵便振り替え用紙をお送りいたします。所定の日時までには郵便振替にて送金してください。(郵便振替受領書をもって領収書といたします。別途領収書を必要とする場合, 大会当日に受付に申し出てください。)

参加申込等の締切等

講演申込締切:2005年7月6日(水) 14:00

開始は3週間前6月15日(水) 14:00から

講演要旨の締切:2005年8月3日(水) 14:00

開始は2週間前7月20日(水) 14:00から

参加予約申込の締切:2005年9月7日(水) 14:00

講演申込および要旨受付方法:講演の申込, 及び講演要旨の原稿受付は, インターネットホームページ上からの受付に限らせていただきます。両者とも, 日本地球化学会ホームページ(<http://www.geochem.jp>)より年会の講演申込, 及び講演要旨の受付をクリックし, 科学技術振興機構(JST)のJ-STAGEを利用して, 所定の書式(講演要旨はPDF形式, 容量は300KB程度)に従って送信してください。講演要旨の書き方は, 本ニュース添付の「講演要旨作成上の注意」またはホームページをご覧ください。受付開始および終了は日時その他, 時間も設定されておりますのでご注意ください。なお, ホームページからの申込が困難な場合は, 下記の年会問い合わせ先に, **締切の1週間前までに**問い合わせください。

参加申込方法:参加申込は, 日本地球化学会ホームページ(<http://www.geochem.jp>)より, 参加予約申込の仕方にアクセスして, 参加予約申込書(PDF形式のファイルをダウンロード)を用いて, ファックスで生協に申し込むか, 又はE-mail(ryokou@fm2.seikyoku.ne.jp)で申し込んでください。

上記の申込書を使って, 旅行・宿泊の手配を琉球大学生協に依頼をすることができます。

年会の詳しい情報は琉球大学の年会ホームページに掲載の予定です。準備が整いしだい, 学会ホームページでお知らせいたします。

年会問い合わせ先:

〒903 0213 西原町千原1

琉球大学理学部海洋自然科学科化学系

日本地球化学会2005年会準備委員会

渡久山 章 TOKUYAMA, Akira (準備委員長)

Tel: 098 895 8526, Fax: 098 895 8565

E-mail: atoku@sci.u-ryukyu.ac.jp

大出 茂 OHDE, Shigeru (経理担当)

Tel : 098 895 8559 , Fax : 098 895 8565

E-mail: sohde@sci.u-ryukyu.ac.jp

棚原 朗 TANAHARA, Akira (情報担当)

Tel : 098 895 8530 , Fax : 098 895 8565

E-mail: tanahara@lab.u-ryukyu.ac.jp

新垣 武 ARAKAKI, Takeshi (公開講演担当)

Tel : 098 893 2596

E-mail: takeshi@okiu.ac.jp

新垣雄光 ARAKAKI, Takemitsu (会場担当)

Tel : 098 895 8553 , Fax : 098 895 8565

E-mail: arakakit@sci.u-ryukyu.ac.jp

琉球大学生生活協同組合 年会担当係 井樋口 豊

Tel : 098 895 6086 , Fax : 098 895 7717

E-mail: ibiguchi@fm2.seikyoku.ne.jp

講演申込・講演要旨受付 米田成一・小林貴之

Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104

E-mail: nenkai 2005@geochem.jp

【 選挙公示 】

日本地球化学会2006・2007年度役員選挙の立候補および推薦候補者の届出について

本会会則により2006・2007年度役員選挙を以下の日程で行います。

立候補・候補者推薦締め切り 6月30日(木) 必着

選挙公報・投票用紙発送 7月中旬

投票締め切り 9月5日(月)

選挙結果公表(総会) 9月27日(火)

つきましては、下記要領で会長・副会長・監事・評議員に対して、それぞれ立候補者および推薦候補者の届出をしていただくようお願いします。

1. 会長1名, 副会長1名, 監事1名, 評議員20名を選出します。
2. 立候補者の届出は、届書を立候補者自身が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委員会宛に送付して下さい。
3. 推薦候補者の届出は、推薦候補者名と推薦者名を記した届書に推薦候補者の承諾書を添えて、推薦者またはその代表者が、(1)選挙管理委員会に持参するか、または(2)選挙管理委員会宛に送付して下さい。なお役員選出細則第8条により、次の方々は次期評議員に選出することができません。

南川雅男, 蒲生俊敬, 北逸郎, 川幡穂高, 長尾敬介, 鍵裕之, 佐野有司, 奈良岡浩, 米田成一, 坎

本久義, 和田秀樹, 清水洋

4. 第2項, 第3項に記した以外の方法で届け出が行われた場合には、届け出を受け付けることができません。郵送の場合には裏に(選挙)と記し、「書留郵便」としてください。

5. 届け出の締め切りは6月30日(木)(必着)です。

6. 選挙管理委員会の所在地は次のとおりです。

〒113 0033 文京区本郷7 3 1

東京大学大学院理学系研究科地殻化学実験施設
鍵 裕之(かぎ ひろゆき)

Tel : 03 5841 7625 , Fax : 03 5841 4119

E-mail: kagi@eqchem.s.u-tokyo.ac.jp

2005年度第2回鳥居基金助成の募集について

2005年度第2回鳥居基金助成の応募の締め切りは2005年7月末日となります。本学会ホームページに応募要項がありますので、ご参照の上、応募書類を提出して下さい。なお今回の助成の対象は、2005年10月から2006年9月までの1年間に実施される海外渡航及び国内研究集会となりますのでご注意ください。

申請手続:

応募者は、Vol 37特別号108, 109ページに掲載されている申請書((1)-Aまたは(1)-B)を所定の期日までに日本地球化学会に提出する。参考となる資料(海外派遣については業績リストおよび学会参加の場合は学会概要等, 国内研究集会については集会の案内・概要等)があれば添付すること。

提出先: 山本鋼志

〒464 8602 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科(理学部気付)

Tel : 052 789 2522 , Fax : 052 789 2522

E-mail: shomu@geochem.jp

「地球化学」では博士論文抄録原稿を募集しています

「地球化学」には、会員の皆様の博士論文の抄録を掲載するページがあります。過去3年までさかのぼって、学位の授与された博士論文(地球化学および関連する分野)について、常時受け付けています。執筆要項は「地球化学」に毎回掲載していますが、39巻1号(まもなく配布されます)では63ページにあります。最近掲載された抄録としては、38巻3号, 201ページ

などをご覧下さい。学位を取得されたばかりの方々からの投稿をお待ちしています。

「地球化学」編集委員長 蒲生俊敬
(gamo@ori.u-tokyo.ac.jp)

Geochemical Journal の テキスト化・検索機能公開のお知らせ

地球化学会会員の皆様

新年度も始まり、皆様、忙しくされていることと思います。

昨年10月地球化学会に交付されました科研費「データベース」を利用し、これまで画像データしかなかった Geochemical Journal Vol. 33以前のうち Vol. 14~Vol. 33をテキスト化し、検索機能を GJ ホームページに付け加えました。(ただし、画像データの陰にテキストを貼り付け検索していますので、pdf ファイルは画像データのままです。)

地球化学会ホームページ (<http://www.geochem.jp/>) から GJ ホームページ (<http://www.terrapub.co.jp/journals/GJ/index.html>) へ飛んでいただければ直ぐにサーチ画面を選択できます。

今後も、継続的にテキスト化を進めて行き、すべての巻のテキスト検索を可能にする方向で検討を加えていきたいと思っております。

以上、宜しく願い申し上げます。

日本地球化学会 会長 田中 剛

P.S. サーチ機能の不具合については、テラ出版・金井様 (gj@terrapub.co.jp) までお問い合わせ下さい。

2004年度第2回「鳥居基金」 助成実施報告 (TE 41)

氏名(所属): 永島一秀(東京工業大学理工学研究科
地球惑星科学専攻)

助成: 海外渡航(アメリカ・ヒューストン)

課題: 第36回月惑星会議, 2005年3月14日~18日

日本地球化学会の海外渡航援助を受け、第36回月惑星会議に参加し、発表を行いました。会議は2005年3月14日より18日までアメリカ・ヒューストンの the South Shore Harbour Resort & Conference Center において開催されました。月惑星会議は世界各国より

非常に多くの研究者が参加する、宇宙化学/惑星科学分野における最大規模の会議であります。5日間共に朝8時半から夕方5時まで常時4カ所の会場で口頭発表が行われ、更に2日間ポスター発表が夜7時から9時半まで行われました。私は3月15日に行われた「Poster Session: Presolar Grains」のセッションにおきまして「Destruction Of Presolar Silicates By Aqueous Alteration Observed In Murchison CM2 Chondrite」という題目でポスター発表を行いました。今回発表した内容は Murchison 炭素質隕石中におけるプレソーラー粒子の存在を隕石研磨薄片を用いたその場同位体分析により明らかにし、プレソーラー粒子の2つの成分であります“ケイ酸塩”と“炭素質粒子”の存在度を比較することから、プレソーラーケイ酸塩粒子が水質変成作用により破壊されたことを明らかにした、というものです。プレソーラーケイ酸塩粒子は、2004年になって初めて隕石中にその存在が発見されたもので、非常に注目を浴びているトピックであります。約2時間半のコアタイムにおいて、プレソーラー粒子の研究者をはじめ十数人の研究者が話を聞きに来て頂き、多くの議論を交わすことができました。とある著名なプレソーラー粒子の研究者には「Murchison 隕石にプレソーラーケイ酸塩粒子が生き残っているとは驚きだ」と言って頂いたことは非常に印象に残っており、たいへんうれしく思いました。また、他の研究者のポスター発表にて多くの議論をできたことも、私の研究の現在の位置付けや今後を探る上でたいへん有意義でありました。

国際学術会議において発表を行い、質問やコメントを頂き、多くの研究者と議論を行うなど、たいへん有意義な国際学会参加となりました。渡航費助成を決定して下さった日本地球化学会と関係者各位に深く感謝しております。

2004年度第2回「鳥居基金」 助成実施報告 (TE 42)

氏名(所属): 則末和宏(京都大学化学研究所水圏環境解析化学領域)

助成: 海外渡航(南アフリカ共和国, オーストラリア)

課題: インド洋南の南極海における微量金属元素の観測, 2004年12月29日~2005年2月22日

主要栄養塩と呼ばれる硝酸、リン酸及びケイ酸が表

層水中に豊富に存在する南極海は、日射量の増大する夏季に生物生産が活発化する海域であり、海洋の炭素循環の研究において重要なフィールドである。南極海における生物生産は、生物活性微量元素の濃度・化学形や二酸化炭素分圧などの化学的要因、生産者・捕食者・分解者の現存量や群集構造・生理状態などの生物学的要因、光合成に有効な光の到達深度・海洋表層の成層化の程度や水温などの物理的要因などによって複雑に制御されている。従って、南極海の生態系と炭素循環の相互作用は、生物・化学・物理グループの密な連携によって解明すべき研究課題である。実際、国内外を問わず、南極海関連の研究は海洋学の様々な分野のグループから成る共同研究体制によるものが多い（例えば、平成11～13年度：国立極地研究所福地光男氏代表「南極海における海洋環境の中長期的変動に関する研究」）。

近年、微量元素の研究が海洋化学において如何に重要であるかの認識が高まってきている。太平洋の断面観測の国際プロジェクトである GEOTRACES はその一つの表れであろう。南極海・赤道太平洋・亜寒帯北太平洋表層における溶存鉄の濃度はナノモル以下と極めて低く、鉄は植物プランクトンによる生物生産の制限因子であると考えられている。また、植物は鉄以外にも多くの微量元素（コバルト、亜鉛、マンガンなど）を必要とするがこれらの外洋表層水中濃度もナノモル～ピコモルレベルと著しく低く、生物生産を制限する可能性がある。しかし、微量元素用試料水は観測現場や観測に用いる採水器・ワイヤー等から容易に汚染されるため、近年まで外洋の確からしいデータの数はかなり制限されていた。信頼しうる微量元素のデータを広範な海域にわたって得るには、微量元素の研究が培ってきた無汚染技術を様々な船で地道に駆使していくことも重要であると考えられる。

昨年度は、東京海洋大学石丸隆氏主導で南極海インド洋区の生態系や海洋構造の解明を目的として、同大学海鷹丸による航海が行われた。本航海では種々の生物や化学成分に加え微量元素の観測が実施された。微量元素の担当を任されたのは、本基金の支援を得て航海に加わった我々のグループである。この海域は、表層の生物活動を通して毎年大量の二酸化炭素を活発に吸収している海域である。二酸化炭素の深海への隔離を検討する上で貴重かつ基礎的な情報を提供しうるフィールドである。しかし、遠方まで出向くための船の膨大な燃料費が高むために、国内の研究船がこのよ

うな海域で上記のような総合的な研究を行える機会は少なかった。このような中、海鷹丸によるインド洋区の航海（ケープタウン～フリマントル～メルボルン）に我々の微量元素グループが加わることができ、計12測点の上層300 m 内における微量元素（アルミニウム、チタン、マンガン、鉄、コバルト、ニッケル、銅、亜鉛、モリブデン、カドミウム、鉛）用試料が無事に採取できたことは意義深いこととである。今後、分析を行う予定である。

提出日：2005年4月26日

第19期第5回地球化学・ 宇宙化学研究連絡委員会議事録

日時：2005年3月7日(月) 13：30～16：00

場所：日本学術会議 第6部会議室（6階）

出席者：山中高光（会員）、蒲生俊敬（地球化学）、佐野有司（地球化学）、清水洋（地球化学）、長尾敬介（地球化学）、下山晃（化学）、留岡和重（鉱物）

欠席者：海老原充（地球化学）、中村栄三（岩鉱）、平原和郎（地球物理研連）、鈴木徳行（地質）

報告事項

1. 学術会議関係

- (1) 連合部会報告（平成17年2月9日開催）（山中会員）
 - (i) 総合科学技術会議に提出された「科学技術基本計画における重要課題に関する提言」（平成17年2月24日）について
 - (ii) 「日本の科学技術政策の戦略（仮称）」
 - (iii) 日本学術会議の新しい体制の在り方に関する懇談会報告
- (2) 第4部会報告（平成17年2月9日開催）（山中会員）
 - (i) 自然史系博物館の高度化小委員会より「自然史系博物館における標本収集継承体制の高度化について」の提案
 - (ii) 第4部報告「先端的研究での全国共同利用のあり方について」（提言）の運営審議会での承認
 - (iii) 平成18年度共同主催国際会議委員会員の選出
 - (iv) 平成17年度代表派遣旅費配分額の決定
 - (v) 日本学術会議会員候補者選考委員会：会員候補者情報を12月24日に締め切った。1,058の機

関から6,751名の情報提供があった。選考委員とともに選考事務の一部に参画する91名の専門委員を、会長の任命により1月25日に発令した。

- (3) 「国際学術団体及び国際学術協力事業 2004年度報告書」として、IAGC に関する報告を2004年12月に提出した。(清水委員長)
- (4) 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」及び「地球化学における環境学」について、日本地球化学会会員にアンケートを実施し、58通の回答を得て集計を行なった。(清水委員長)
- (5) 平成17年度代表派遣会議および代表派遣候補者として海老原充委員が推薦され採択された。(第68回国際隕石学会年会、アメリカ合衆国、2005.9.12~16)(清水委員長)

2. 第144回総会(4月開催予定)への研連報告について(清水委員長)

審議事項

1. 「アジア地域における地球化学・宇宙化学の連携」及び「地球化学における環境学」に関するアンケート集計結果について清水委員長から説明があり、これに基づいて議論があった。この結果に関する对外報告の方法について議論され、政策提言に発展させるのは困難であるが地球化学会内部への報告としては有意義であり、今回の議論を含めて日本地球化学会ニュースに報告することになった。

その他

1. 次回の委員会の日程について

次回の委員会を2005年6月10日(金) 午後1時30分より開催することを決めた。

日本学術会議大気・水圏科学研究 連絡委員会陸水専門委員会 (第19期第4回)・議事抄録(案)

日時：平成17年3月17日 14:00~16:00

会場：日本学術会議 第4部会議室

出席者：佐倉保夫(委員長), 鈴木裕一, 高田秀重,
中尾正義(幹事), 山田正, 井上源喜, 坪山良夫

議事:

1. 地球物理学研連(第19期第5回目)の報告

・配布資料に基づき、地球物理学研連の活動報告があった。とくにわが国の英文論文誌が重要という指摘や課題別委員会の新たな設置への動きなどが報告された。陸水専門委員会から提案する小委員会に関して、あらたに生態水文学小委員会の設置を申請することが認められた。また、前回設置が認められなかった地下環境水文学小委員会についても至急再申請をおこなうこととなった。

2. 水関連拡大委員会の報告

・課題別委員会に関して、水関連拡大役員会で課題別委員会の提案の検討が進んでいる旨の報告があった。

3. 陸水専門委員会主催のシンポジウムについて

・山田委員から提案のあった「水に関するコンピュータソフトウェア」のようなシンポジウムを水文水資源学会と共同主催で開催するということが合意した。ただし、水文水資源学会の賛意が得られるかどうかは未定のため、今後よく連絡を取り合って実現の方向で検討する。

4. IAHS 国際対応について

・来る4月のIAHS総会ではいわゆるビジネスミーティングは予定されていないが、2007年のペルージャでのIUGG総会ではメンバーの選挙等が予定されている。投票権は各国の代表にしか与えられないため、至急日本代表を確定する必要がある。それぞれの国際委員会への日本代表の人選を次回の会議ですべて決定する予定。

5. 今後の会議日程

・次回の陸水専門委員会(平成17年度第1回会合)は、6月頃に開催予定の地物研連開催(日に未定)の後に開き、第2回目を9月ごろ陸水専門委員会主催のシンポジウムに合わせて開催する方針を確認した。

2005年度地球化学研究協会学術賞 「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

地球化学研究協会より、「三宅賞」および「奨励賞」候補者の推薦を依頼します。

下記の要領で応募して下さい。申請書類は、地球化学研究協会のホームページからダウンロードして下さい。

1. 三宅賞

対象：地球化学に顕著な業績をおさめた研究者

表彰内容：賞状，副賞として賞牌および賞金30万円，毎年1件（1名）

2．奨励賞

対象：推薦締切日に35才以下で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者

表彰内容：1件10万円，毎年1件（1名）

3．応募方法：申請書に略歴，推薦理由，研究業績などを記入し，主な論文10編程度（三宅賞），2編程度（奨励賞）をそえて，下記のあて先へ送付して下さい。

応募書類等は，三宅賞及び奨励賞選考のために選考委員会などで用いられます。

4．締切日：2005年8月31日

5．地球化学研究協会ホームページ：

<http://www.soc.nii.ac.jp/gra/>

6．応募先：

〒100 0005 東京都千代田区丸の内1 4 3

UFJ 信託銀行株式会社リテール統括部

公益信託地球化学研究基金

6．問合せ先：

公益信託地球化学研究基金受託者事務局

リテール統括部 江川

Tel：03 3218 0718，Fax：03 3212 2320

E-mail: k-egawa@ufjtrustbank.co.jp

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻（地球惑星科学系）教員の公募について

名古屋大学大学院環境学研究科地球環境科学専攻では，下記の要領により教員（助教授）を公募することになりました。

記

1．職種・人員：地球環境科学専攻地球化学講座（理学部地球惑星科学科併任）助教授 1名

2．研究・教育分野：地球化学

3．資格・条件：博士の学位を有すること。上記分野の研究のみならず，学部学生・大学院生の教育に熱意を持ち，教室の運営にも積極的に参画すること。

4．着任時期：平成17年11月1日以降の早い時期

5．提出書類：

1) 履歴書

2) これまでの研究経過（2,000字程度）

3) 研究業績目録 A．査読のある論文及び総説，

B．査読のない論文および総説，C．著書，D．その他とくに参考となる出版物

4) 主な論文の別刷りまたはコピー 5編程度

5) 今後の教育・研究の計画と抱負（2,000字程度）

6．応募締め切り：平成17年6月30日(木) 必着

「地球化学教員応募書類在中」と朱書きし，簡易書留にて郵送すること。

7．書類の送付および問い合わせ先：

〒464 8601 名古屋市千種区不老町

名古屋大学大学院環境学研究科（環境総合館）

地球化学講座助教授候補者選考委員会

委員長 河合崇欣

Tel / Fax：052 789 2536

E-mail: tkawai@eps.nagoya-u.ac.jp

当教室の概要はホームページ

<http://www.eps.nagoya-u.ac.jp/>をご覧ください。

地球化学講座の平成17年4月11日の構成教員は以下の通りです。

教授 田中剛，川邊岩夫，助教授 山本鋼志，南雅代，助手 三村耕一，浅原良浩

本公募は，南雅代助教授の転出（6月1日予定）に伴うものです。

国立環境研究所公開シンポジウム 開催のお知らせ

国立環境研究所では，最新の環境研究の成果を普及するため，毎年，環境月間に公開シンポジウムを開催しています。本年は，『地球とくらしの環境学 あなたが知りたいこと，私たちがお伝えしたいこと』と題し，東京（6/12）及び京都（6/25）において開催します。

私たちの暮らしと密接に関係する環境問題についての研究成果（地球温暖化，循環型社会，化学物質の影響に関する講演4件），研究者が直接対話をしながらご説明するポスターセッション（25件）を行います。

スケジュール，内容等の詳細は，Web（<http://www.nies.go.jp/sympo/2005/index.html>）をご覧ください。

日時・会場

【東京会場】

2005年6月12日(日) 12:00～17:00

メルバルクホール

〒105 8582 東京都港区芝公園2 5 20

Tel/Fax : 03 3459 5501

(アクセス) JR・モノレール浜松町駅より徒歩10分 / 都営三田線芝公園駅 A3 出口より徒歩2分 / 都営浅草線・大江戸線大門駅 A3・A6 出口より徒歩4分

【京都会場】

2005年6月25日(土) 12:00~17:00

京都市アバンティホール

〒601 8003 京都市南区東九条西山王町31番地
アバンティ9階

Tel : 075 671 8188, Fax : 075 671 8956

(アクセス) JR・地下鉄烏丸線・近鉄京都線京都駅八条東口よりすぐ

参加申し込み方法等

参加費は無料です。

参加御希望の方は、Web (<http://www.nies.go.jp/sympo/2005/index.html>) よりお申込ください。FAXでのお申込みをご希望の方は、上記の Web より参加申込書 (PDF ファイル) をダウンロードしていただき、必要事項を記入の上、FAX (事務局: 03 3597 1097) でお申込みください。

申込み多数の場合、会場定員に達した時点で申込みを締め切らせて頂きますので予めご了承ください。

問い合わせ先

独立行政法人国立環境研究所

公開シンポジウム事務局

〒105 0003 東京都港区西新橋1-7-2

虎ノ門高木ビル

国立環境研究所公開シンポジウム2005登録事務局

(株)インターグループ内 (担当: 山口・林田)

Tel : 03 3597 1129, Fax : 03 3597 1097

E-mail: nies2005@intergroup.co.jp

第11回大気化学討論会のお知らせ

主催: 大気化学研究会

会期: 2005年6月15日(水)~17日(金)

会場: 奈良市男女共同参画センター「あすなら」

内容: 対流圏・成層圏を中心とする大気化学および関連する諸分野の研究者が集い、最新の研究成果の発表を行うと共に、意見交換や今後の研究計画を話し合うことを目的としています。

詳細は大気化学研究会ホームページ:

<http://www.stelab.nagoya-u.ac.jp/ste-www1/div1/taikiken/>をご覧ください。

「サイエンスキャンプ2005」参加者募集

「サイエンスキャンプ」は、様々な最先端の研究成果や研究施設・実験装置等を有する公的研究機関26会場が、夏休みの3日間または4日間、高等学校、中等教育学校後期課程または高等専門学校(1~3年生)等に在籍する生徒をそれぞれ6~30名(全体で329名)受け入れ、本格的な実験・実習を行う、科学技術体験合宿プログラムです。募集要項・申込書は、事務局に請求するか、WEBサイトからも入手可能。

主催: 財団法人日本科学技術振興財団

応募資格者: 高等学校、中等教育学校後期課程または高等専門学校(1~3年)等に在籍する生徒。

応募方法: 応募者は「参加申込書」に必要事項を記入のうえ、事務局に送付。

応募締切日: 6月27日(月) (必着)

参加費: 8,000円(保険料等実費の一部に充当します)、自宅と会場間の交通費は自己負担。

サイエンスキャンプ事務局:

財団法人日本科学技術振興財団 振興部内

〒102 0091 東京都千代田区北の丸公園2番1号

Tel : 03 3212 2454, Fax : 03 3212 0014

URL:<http://ppd.jsf.or.jp/camp/>

【「会場名」(会期・定員)】

「国土交通省 気象庁 気象研究所」(7/27~7/29・10名)

「独立行政法人 情報通信研究機構 鹿島宇宙通信研究センター」(8/8~8/10・12名)

「独立行政法人 国立科学博物館 Aコース [動物]」(8/22~8/24・10名)

「独立行政法人 国立科学博物館 Bコース [植物]」(8/2~8/4・10名)

「独立行政法人 物質・材料研究機構」(7/27~7/29・15名)

「独立行政法人 防災科学技術研究所」(7/25~7/27・20名)

「独立行政法人 放射線医学総合研究所」(8/16~8/19・20名)

「独立行政法人 理化学研究所」(7/27~7/29・21

名)

「独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 筑波宇宙センター」(8/1~8/3・30名)

「独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 航空宇宙技術研究センター」(8/2~8/4・20名)

「独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 角田宇宙センター」(8/9~8/11・8名)

「独立行政法人 海洋研究開発機構」(7/27~7/29・24名)

「独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 中央農業総合研究センター/作物研究所」(8/8~8/10・8名)

「独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 果樹研究所」(8/9~8/11・12名)

「独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 畜産草地研究所」(8/9~8/11・6名)

「独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構 動物衛生研究所」(8/9~8/11・8名)

「独立行政法人 農業生物資源研究所」(8/17~8/19・6名)

「独立行政法人 農業工学研究所」(8/17~8/19・6名)

「独立行政法人 森林総合研究所」(8/17~8/19・8名)

「独立行政法人 産業技術総合研究所 つくばセンター」(8/23~8/25・15名)

「独立行政法人 産業技術総合研究所北海道センター・地質調査総合センター」(7/25~7/27・10名)

「独立行政法人 産業技術総合研究所中部センター」(8/23~8/25・6名)

「独立行政法人 港湾空港技術研究所」(7/25~7/27・10名)

「独立行政法人 国立環境研究所」(7/26~7/28・6名)

「日本原子力研究所」(8/8~8/11・18名)

「核燃料サイクル開発機構」(8/2~8/4・10名)

書評

“Water on Mars and Life”

(Editor Tetsuya Takano)pp. 331

Springer-Verlag Berlin Heidelberg 2005

(ISBN 3-540-20624-8) EUR 85. 55, US\$89. 95

“Astrobiology”という学問分野は、日本でも昨今よく耳にするようになった新しい研究分野であるが、本書は、Springerが刊行している“Advances in Astrobiology and Biogeophysics”の一冊として、ドイツ、ケルン大学の日本人研究者、戸叶哲也博士が編集した総説論文集である。編者の戸叶博士は、ドイツで教育を受けた弱冠36歳の新進気鋭の研究者で、新しい分野には若手を編者に起用して隆盛をはかるといドイツの新しい学問に対する意気込みを感じる。

本書の構成は下欄の(内容)に示すように、3つのテーマのもとに13の総説論文からなり、総勢29名の執筆者が関わっている。ちなみに編者の戸叶博士は第8章を執筆している。29名の執筆者の専門は多岐にわたっており、このような場合一冊の書物にまとめると、往々にして各論文の寄せ集めになり全体としてのまとまりがなくなりがちであるが、本書では「火星の水」から「生命」への橋渡しが大変うまく構成されている。「火星の水」については、軌道衛星や着陸船の観測結果、火星隕石からの知見、含水鉱物からの知見、水循環モデルほか、各方面からのアプローチが紹介されており、現在の水の分布や形態、その経年変化、さらには火星誕生以来の水環境について、現在の知識がまとめて理解できる。地球における生命の起源や進化は液体の水の存在なくしては語れないので、火星に生命の痕跡を見つける研究もまずは火星の形成以来の水環境を調べることを足がかりにするのであろう。しかし、地球とのアナロジーに立脚しない火星やその他の地球外の生命の起源は考えられないのであろうかと、ふと思ってしまった。

「水」と「生命」をキーワードにして最近の火星研究を手際よくまとめており、比較としての地球における生命環境もうまくまとめている。宇宙化学、地球化学に携わる、あるいは志す人には是非奨めたい一冊である。

(野津憲治)

(内容)

Part I. History of Water on Mars

1. The Origins of Martian Water: What We Can Learn from Meteorites
2. Atmospheric Evolution and the History of Water on Mars
3. Early Life on Earth and Analogies to Mars
4. Hydrated Minerals on Mars

- Part II. Water Reservoirs on Present Mars
5. Global Distribution of Subsurface Water Measured by Mars Odyssey
 6. Polar Caps
 7. Ground Ice in the Martian Regolith
 8. Water Cycle in the Atmosphere and Shallow Subsurface
 9. Polar Lakes, Streams, and Springs as Analogs for the Hydrological Cycle on Mars
 10. Ancient and Recent Lakes on Mars
 11. Impact Craters, Water and Microbial Life
 12. Microbial Life in Brines, Evaporites and Saline Sediments: the Search for Life on Mars
 13. Microbiology of Deep-Sea Hydrothermal Vents: Lessons for Mars Exploration
- Part III. Aqueous Environments and the Implications for Life

165 mm



講演番号記載
スペース (空欄)

10 mm

講演題目

○ 琉球太郎¹、西原花子¹、宮里藍²
(¹琉大理、²名桜大環境学部)

40 mm



25 mm



講演要旨作成上の注意

- 1) フォントはできるだけ明朝体を使ってください。
- 2) 原稿は、B5 版になります。文字が小さくなりすぎないように注意してください。
- 3) 枠は範囲を示しているだけです。書く必要はありません。
- 4) A4 用紙に上部 31 mm、下部 30 mm、左 23 mm、右 20 mm のマージンを設定してください。
- 5) 研究題目、発表者、ならびに所属は例示に準じて記入し、講演者の左側に○印をつけてください。講演題目などに関する英文標記についても同様です。
- 6) 左上の講演番号を印刷するスペースは必ず空けておいてください。
- 7) PDF ファイルで送るため、300 kb 程度のファイル容量で作ってください。
- 8) 一般講演は、要旨 1 ページ、課題講演は 2 ページまで。
- 9) 原稿は、プリントして正常に印刷できるか、ご確認の後送ってください。
- 10) 講演要旨の締め切りを厳守してください。

190 mm



Theme title

○T. Ryukyu¹, H. Nishihara¹ and A. Miyazato²

(¹ Fac. Sci. Univ. of the Ryukyus, ² Dept. Environ. Meio Univ.)

20 mm



ニュースへ記事やご意見をお寄せください

皆様の情報・原稿をお待ちしています。地球化学に関連した研究集会，シンポジウムの案内，人材募集，書評，研究機関の紹介など何でも結構です。編集の都合上，電子メール，フロッピー（マックもしくは Dos/V いずれでも結構です）での原稿を歓迎いたしますので，ご協力の程よろしくお願いいたします。次号の発行は2005年8月頃を予定しています。ニュース原稿は6月中旬までにお送りいただくよう，お願いいたします。また，ホームページに関するご意見もお寄せください。

編集担当者

米田成一

〒169 0073 東京都新宿区百人町3 23 1
国立科学博物館理工学研究部

Tel : 03 3364 7142 , Fax : 03 3364 7104

E-mail:s-yoneda@kahaku.go.jp

高橋和也

〒351 0198 埼玉県和光市広沢2 1
理化学研究所加速器基盤研究部

小林貴之（ホームページ）

〒156 8550 東京都世田谷区桜上水3 25 40
日本大学文理学部